

# 三原のお宝 歳出しニュース

— 第 61 号 —

## みせ かんばん お店のシンボル 看板

酒屋をはじめ、お店の広告宣伝に欠かせないのが看板です。看板は今から約1,000年前の平安時代から登場し、商業が発達した江戸時代に広まったとされています。看板は店の軒先に掲げて、店の場所を知らせる役割もありますが、街中に貼り出して商品をPRするのも大事な役割です。

もともとは木や竹で作られていましたが、今から約130年前の明治時代中ごろから、金属製の看板が使われるようになり、昭和50年代まで宣伝に一役買っていました。最近は扱いやすさから、プラスチック製の看板が使われることが多くなりました。

資料館で展示している看板には、商品名と酒蔵の名前が、120センチの板の中にシンプルに書かれています。近年、レトロブームで古い看板の人気が高まっています。その雰囲気には、人の心を惹き付けるものを感じられます。



大正時代の終わりごろ（約100年前）の本町の写真です。電柱に看板が張られている様子が分かります。

まえか

# 前掛けでもアピールを！

お店の宣伝になるのは、看板だけではありません。日用品にお店の名前を入れ、年末年始のご挨拶などで贈っていました。

酒屋をはじめ、商売をしている家で良く使われる日用品のひとつに前掛けがあります。前掛けはエプロンのような役割で、服を汚さないようにしたり、裾で手を拭いたりしました。荷物を肩に担ぐ時には、前掛けをまくり上げて肩当てにすることもありました。

昭和の中ごろまでは、商品の配達やお店へのあいさつ回りの時に、前掛けを締めて出かけていました。中央に大きく染め抜かれたお店の名前は、訪問先でよく自立ち、宣伝効果も大きかったと思われま

す。テレビやインターネットが今ほど普及していなかったからこそ、こういった日常生活の中での宣伝は今以上に大切だったのかもしれない。

前掛けは今でも使われており、動きやすいように丈を短くしたり、ポケットをつけたりと様々な工夫がされています。

紺色の布に、白抜きで文字が書かれています。  
重い酒を運ぶ酒屋で、前掛けはとても重宝しました。



資料館は通常どおり開館しています。

※開館時間 9時30分～17時

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

12月28日～1月4日

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/kyouiku/103968.html>

《編集後記》

お酒シリーズ第4回はお店の広報がテーマです。  
時代は変われど、宣伝のための努力は変わらないものです。  
様々な広報の工夫を、ぜひ資料館をご覧ください。

(み)

三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

開館時間 9時30分～17時

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

令和3年12月10日発行

